

6月27日(土曜日)「助けはどこから？」

【新改訳 2017】

詩篇 121・1－8

「私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。私の助けは、天地を造られた主から来る。主はあなたの足をよろけさせず、あなたを守る方は、まどろむこともない。」(1－3節)

なんと慰めと平安を与えてくれる詩篇ではありませんか。この詩篇は著者個人にとっても、また牧会者としての働きにとっても、どんなに大きな祝福を注いでくれたかしれません。

病気、失敗、失意……あらゆる悲観的な状況の中でも、あるいは、何か新しいことを積極的に進めようとする時にも、このみことばは十分な支えとなり、励ましとなります。

よくターミナル・ケアの際に、あるいは手術を受け

られる人たちに対して、読んでお祈りしています。
患者さん自身も主の御守りを確信されるのを見ま
すが、牧会者としての自分も平安を与えられます。
まどろむことなくお守りくださる神に感謝し、信頼
しましょう。

～祈り～

創造主なる神さま。あなたを父なる神と呼ばせて
いただけることを心から感謝します。また、眠るこ
とも、まどろむこともなく守ってくださることを感
謝します。

【学びのために】

讚美歌 301 番参照。

(参考区部) テーマ「神の助けを仰ぎ求める」、1-
2 節 巡礼者の自問自答、3-8 節 信仰的励まし
のことは。